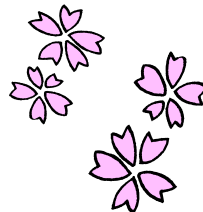


Topic 1 合格体験記 喜びの声&後輩へのアドバイス

野辺 樹稀也くん

■合格大学：東洋大学 理工学部 機械工学科
■学校名：県立松山高校 ■校舎名：寄居中央校



● 合格を手にしての感想は？

他の人より早く受験が終わったので、プライベートなどに使う時間が増え、残りの高校生活を余裕を持って過ごすことができる。今まで挑戦できなかったことに取り組むことで、さらに充実した高校生活にできることが嬉しい。

2年生のときに成績を落としてしまったが、あきらめずに勉強してなんとか取り戻すことができ、指定校推薦の校内選考を通ることができた。

● 将来の夢や目標は？

中学生の頃、自作パソコンに興味を持ち、機械工学という学問を知りました。そのことについて調べていくうちに、この学問では機械の設計も行っていることを知り、将来は精密機械の設計に携わる仕事に就きたいと思うようになりました。大学で専門知識をしっかりと学び、社会に出たときに即戦力になれるような人になりたいです。

● 俊英館に通塾して良かったところは？

夏期講習で自分の苦手とする場所を発見することができ、そこを克服することができたことで、自信を持つことができました。自宅では勉強がはかどらない私には、塾の自習室を利用して勉強することで学力の向上を実感し、勉強には環境も大切なのだと痛感しました。

● 後輩へのアドバイス

1年から3年まで気を抜かないで勉強することが大切です。特に1年の授業は基本的な内容になりますが、2・3年時に必要になるものなので、基礎固めをしっかりとしておくことで後々の成績を維持することができます。

2年時は科目数が一気に増えるので、成績を上げることが困難を極めます。だから1年時の成績を維持する勉強をすることが重要です。日頃の学校の授業を集中して取り組み、その時間の中で覚えるように勉強すれば、部活などで忙しくても成績を維持し続けられると思います。

全学年を通して、一番成績を上げることができるのはテスト前の部活停止期間です。この期間中に塾の自習室で勉強するなどして、集中できる学習環境を整えることが大切です。友人と一緒に勉強することでもモチベーションを上げることができます。

1・2年時は部活が忙しくて勉強に手が回らないことも多いと思いますが、日々の授業を大切にすることで学力はつくと思います。



短い冬休み期間をいかに過ごすかは、とても大事です。年中行事などでも忙しいこの期間の過ごし方について、間違えてはいけない各学年の最重要ポイントをまとめました。

高3:第一志望合格につながるベストな勉強法

①赤本、問題集、冬の講習の3つを駆使して最後の得点力アップを図る。

赤本を解いていても、この時期では合格点には達していない大学も多いと思います。合格点（自己採点で75点以上）を超えるまであと何点とればよいのか、どの科目のどの単元を克服すべきなのかを把握することが第一です（大学によって科目ごとの難易度が変わりますから、それも考慮しましょう）。

しかし、赤本を解くだけでは、入試での得点力アップは図れません。合格点との差が明確になったら、その差を埋めるために、問題集で演習したり、冬の講習を受講したりする必要があるのです。赤本を解く時間を確保するために、講習の講座を少なめに抑えようとして落とし穴にはまる人がいます。冬の講習は、長年のデータ分析から作られた、直前対策として効果的な、得点力アップに直結する講座がたくさん用意されています。自分にとって必要な講座を受講して、完全消化に努めましょう。

また、センター試験を受験する人（国公立大入試、私立のセンター利用入試を受ける人）は、センター前1ヶ月間は、センター対策に没頭しましょう。マークシート問題をいかに速く解き、制限時間内に自己最高得点をマークすることができるか、センター試験に体が慣れるまで、冬の講習のセンター対策講座や、市販のセンター模擬テストパックを繰り返し解きましょう。

②塾のテキストを復習する。

塾のテキストの2学期内容の部分は入試頻出の単元で構成されています。1学期で基礎を固め、2学期で実践問題を解ける力が養成できる作りになっているわけです。すでに受講し終えた2学期のテキストをもう一度解き直して、得点力アップを図りましょう。2度目の解き直しは1回目ほど時間がかからないので、効率の良い勉強法といえます。計画的に復習する時間をとることが実は最も効率が良いのです。

③再度赤本を解いて、出題傾向と自分の得点力との差を把握する。

冬の講習、問題集演習、2学期テキストの解き直しを経て、どのくらい実力が上がったかを測るべく、再度赤本を解きましょう。その結果を受けて、改めて底上げを図るべき科目・単元を見つけて、冬の講習テキスト、問題集、2学期テキストのその単元部分の解き直しを受験終了まで継続していきましょう。

高2:大学合格률을30%アップさせるために、本格的な受験勉強を冬までに開始する！

冬休みは受験勉強スタートラインです。受験勉強のスタートが1ヶ月遅れるごとに第一志望の合格可能性は10%落ちると言われています。この時期を逃すと、受験勉強のスタートは学年末テスト終了後になり2ヶ月も遅くなり、合格可能性が20%落ちます！2学期の期末テスト直後から受験勉強を始め、合格률을30%上げましょう！

冬の講習では、理系なら英語、数学、理科、文系なら英語、国語、社会を受講します。冬の講習以外の勉強では、英文法の総復習をしてください。基本的なことでも忘れていることが多くて、びっくりするかもしれません（試しに、下の問題を解いてみてください）。

問題 次の文を He を主語にした文に書き換えなさい。 It seems that he was sick.

答え He seems to have been sick.

※that 節の時制(過去)が主節の時制(現在)とずれているので「完了不定詞」を使うところがポイント！

高1:評定平均を効率よく上げる考え方

①通知表の10段階評定で、奇数の評定(9,7,5)を狙おう。

「学年評定」では5段階評定を用いますが、10段階評定の9,7,5はそれぞれ5,4,3になります。10段階評定の10,8,6もそれぞれ5,4,3ですから、10段階評定では奇数の評定(9,7,5)でもよいわけです。

※ただし、10段階評定を5段階評定に直す基準は、学校によって異なります。

②1学期と2学期で評定(通知表結果)が違う科目に力を入れよう。

通知表が1学期は7で、2学期も7の場合、3学期9をとっても、学年評定は平均されて10段階評定で8になり、5段階評定では4になります(ちなみに、10段階評定の7も5段階評定では4です)。つまり、1学期と2学期で9と8や、7と6、5と4などで通知表が1だけ異なっている科目は3学期に力を入れて1上げておくことで、効率よく評定平均も上げることができます。

1 日本学生支援機構 無利子奨学金の成績基準撤廃

日本学生支援機構（JASSO）の貸与型奨学金は、大学・短期大学・高等専門学校・専修学校専門課程および大学院で学ぶ人を対象とした、国が実施する貸与型の奨学金。貸与型奨学金の種類は、利息のつかない第一種奨学金（無利子）と、利息のつく第二種奨学金（有利子）のふたつ。

8月2日の閣議決定を踏まえ、JASSOは10月28日、第一種奨学金の採用基準に含まれる成績基準を撤廃すると発表。低所得者層など、奨学金を必要とするすべての生徒に対して第一種奨学金を貸与するため、基準を変更のうえ、追加推薦の受付を開始する。

これまで設けられていた成績基準は、高校または専修学校高等課程の1年から申込み時までの成績の平均値が3.5以上。そのほか、世帯人数や世帯収入・所得の上限に応じた家計基準によって採用審査が行われていた。

この成績基準撤廃によって、低所得者層のうち現在第二種奨学金の貸与を受けている学生約2万人が第一種奨学金の貸与対象者となる見込みである。

2 英検「準2級」「3級」ライティング導入 4技能化へ

日本英語検定協会は10月14日、2017年度第1回英検より、準2級と3級にライティングテストを導入すると発表した。昨今のグローバル人材の育成を目的とした日本の英語教育の流れに迅速に対応したもので、今回の改定により3級以上の全級で4技能化（読む・聞く・話す・書く）が実現する。

ここ数年、日本の英語教育は小・中・高と継続して4技能を総合的に育成する方向で、さまざまな取り組みが行われている。同協会では早期より英検における全級の4技能化に着手し、2016年度第1回より2級にライティングテスト、4級と5級にスピーキングテストを導入した。

2017年度第1回より導入する準2級と3級のライティングテストは、記述式の自由英作文で、与えられた質問に対し自分の意見とその裏付けとなる理由を、適切な語彙と文法を使用しながら英文で論述する能力が問われる。

出題内容は、中学、高校の学習指導要領の目指す方向性と合致した設問であるとともに、国際標準規格CEFRレベル（準2級はA2レベル、3級はA1レベル）と整合性を持たせたものであるという。

<2017年度以降 実用英語技能検定の各級における測定技能一覧>

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級
リーディング	○	○	○	○	○	○	○
リスニング	○	○	○	○	○	○	○
スピーキング	○	○	○	○	○	○	○
ライティング	○	○	○	○	○	⊙	⊙

○ 2017年度 開始予定 / ⊙ 早期実現を目指し準備中

3 東大 理文連携で次世代知能開発へ

われわれの生活を劇的に変えてゆくであろう人工知能（AI）やIoT（モノのインターネット）。その全貌についてはまだ計りがたい部分も多いが、東京大学はすでに“AI・IoT時代”の到来に向けて動き出しているばかりか、その先頭に立って未来を切り開こうとしている。

国内のAI研究のトップランナーの東大は今、ますますそのスピードを加速している。10月初旬、東大の五神総長やNECの新野社長らは報道陣の前でこやかな表情で手を重ね合った。世界の最先端をゆく研究者を結集し、革新的な共同研究を行うことを目的とした「フューチャーAI研究・教育戦略パートナーシップ協定」を締結した際の記者会見でのことである。

そして、今月1日、次世代知能科学研究センターが発足した。情報理工学系研究科が責任部局となり5部局が連携した組織で、石川研究科長によると「小さく産んで大きく育てる」とのこと。今後、そのほかの多くの部局との連携・協力関係を構築し、「現状の人工知能学の枠組みを超えた、真に人間のためになり、将来の社会を駆動する、新たな知能科学体系を創出」してゆくという。

◇ 大学入試を基礎から知る

第7回 <大学入試用語 その1>

一般入試

募集人数の割合が最も高い選抜方式。推薦・AO入試以外の入試を指す。大学が指定する教科・科目の総合点で合否が決められる。さまざまな試験方式がある。

推薦入試

高校から推薦された生徒を調査書や面接などにより総合的に評価する選抜方式。小論文や面接を課す大学も多い。学力だけで判断するのではなく、幅広い視点から判定し、学風や教育方針に合った学生を選抜しようという目的で実施されている。ただし、大学が指定する出願条件に当てはまらなければ受験できない。国公立大学の中には、センター試験などの学力試験を課す大学もある。

AO入試

大学が求める学生像（アドミッション・ポリシー）に合っているかどうかや、学びへの意欲や関心、適性を重視する選抜方式。面接を複数回行ったり、出願時に志望理由書や小論文などを提出させたりして、時間をかけて選考を行う。国公立大学の中には、センター試験を課す大学もある。1990年に慶應大学で導入されたのを皮切りに、2015年度入試では、535大学1329学部で実施された。

大学入試センター試験

高校での基礎的な学力の到達度を測る目的で行われている全問マークシート方式の試験。国公立大の1次試験として利用されているだけでなく、センター試験利用入試を行う私立大志願者も受験しなければならない。受験が必要な科目や配点は、各大学・学部が独自に設定する。2016年度は約53万人が受験した。

評定平均値

推薦入試の出願や、合否を決める際の基準となる数値。高1～高31学期までに履修したすべての科目の5段階評価の成績を合計し、全科目数で割って算出する（小数点以下第2位を四捨五入）。調査書上では「全体の評定平均値」と呼ぶ。

■評定平均値の算出方法

(例) 履修科目数30, 評定の合計値が116のとき

$$\frac{\text{評定の合計値(全科目)}}{\text{全科目数}} = \frac{116}{30} = 3.86\cdots \div 3.9$$

学習成績概評

評定平均値をA～Eの5段階にランク分けしたもので、評定平均値とともに調査書に記載される。評定平均値の5.0～4.3=A, 4.2～3.5=B, 3.4～2.7=C, 2.6～1.9=D, 1.8以下=Eとなる。国公立や難関私立の推薦入試では、Aが望ましく、Ⓐ（学校長が特に優秀と認めた生徒）に限定している大学もある。

個別学力検査

各国公立大が独自に問題を作成し、実施する2次試験のこと。国公立大の一般入試では、センター試験と個別学力検査の結果を総合して、合否が決まるのが一般的である。全問マークシート方式のセンター試験とは異なり、記述式で出題される。また、面接や適性検査、実技を課す大学も増えてきている。

2段階選抜

国公立大入試で、センター試験終了後、その得点や調査書をもとに、個別学力検査の受験に進めるかどうかの選抜を行うこと。難関国公立大や医学部など一部の大学・学部・学科で、募集人員に対して、個別学力検査の志願者数が大きく上回った際に実施される。いわゆる「門前払い」「足切り」のこと。

